

KATSUYAMA CITY

# 福井県勝山市

## 勝山市人口ビジョン

令和3年度改訂版



▼ さあ、恐竜のまちへ。



令和4年3月

# 目次

---

## 第 1 章 人口ビジョンとは

---

1 人口ビジョン改訂の趣旨	P2
2 人口ビジョン改訂の目的	P3

---

## 第 2 章 人口の現状分析

---

1 総人口の推移と将来推計	P6
2 自然増減の状況	P11
3 社会増減の状況	P13

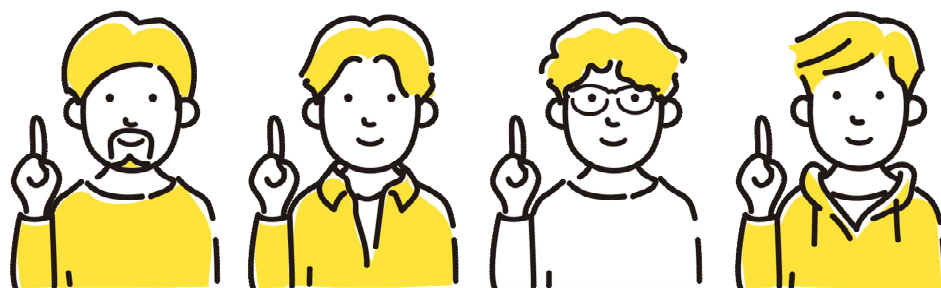
---

## 第 3 章 人口の将来展望

---

1 目指すべき将来の方向性	P18
2 人口の将来展望	P19

---



# 第1章 人口ビジョンとは

---



# 1 人口ビジョン改訂の趣旨

## (1)背景

人口急減・超高齢化という日本が直面する大きな課題に対し、国と地方が力を合わせ地方創生に取り組む必要があります。

勝山市人口ビジョン(以下「第1期市人口ビジョンという。’)は、国が平成26年(2014)12月に策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(以下「長期ビジョン」という。’)に基づき、勝山市における人口の現状を分析し、市民の皆さんと人口に関する認識を共有するとともに、勝山市総合計画および勝山市地方創生総合戦略を策定する上での重要な基礎資料として平成28年(2016)1月に策定しました。

国においては、策定から5年が経過した令和元年(2019)12月に長期ビジョンを改訂し、加速する人口減少や、人口減少の地方から都市部への広がり、令和24年(2042)に高齢化がピークを迎える現状を捉え、若者世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえること、地方移住の裾野を拡大し地方へ新しい人の流れをつくることが人口減少の歯止めに繋がるとし「活力ある地域社会」の実現と「東京圏への一極集中」の是正をめざすとしています。

勝山市においても、国の長期ビジョン改訂を受けて、令和2年(2020)3月に第1期市人口ビジョンを一部見直しましたが、令和4年4月にスタートする「第6次勝山市総合計画」および「第2期勝山市地方創生総合戦略」の策定にあわせて、第1期市人口ビジョンを改訂(以下「第2期市人口ビジョン」という)することとしました。

## (2)第2期市人口ビジョンの位置づけ

第2期市人口ビジョンは、勝山市における人口の将来展望を示すとともに、人口減少、人口構成の変化に対応するため、令和4年から10年間のまちづくりの方向性を示す「第6次勝山市総合計画」および総合計画に掲げた政策目標を実現するための施策等を示す「第2期勝山市地方創生総合戦略」を策定する上での基礎資料として位置づけます。

## 2 人口ビジョン改訂の目的

### (1)目的

勝山市の人口は、昭和 29 年(1954)の市制施行以来、減少し続けており、社人研の将来推計によると令和 12 年(2030)には、2 万人を割り込むと予測されています。

また人口減少だけでなく、少子高齢化の進展による人口構成の変化が勝山市にとって様々な影響を及ぼします。特に生産年齢人口(15 歳以上 65 歳未満)の減少は、地域の担い手や労働者不足につながり、地域コミュニティの機能低下や産業活動、消費の縮小を招く恐れがあります。また高齢化率が上昇することにより、医療・介護費などの社会保障費が増大し、地域経済・財政への影響が懸念されています。このような状況を打破するためには、人口減少対策を積極的に進めるとともに、人口減少・少子高齢化社会を前向きに捉え、環境の変化や多様化に適応する前例のないまちづくりに取り組む必要があります。

人口ビジョンの改訂は、現状をしっかりと分析し、人口の将来を展望することで、今後の人口の変化が地域の将来に与える影響を分析・考察し、「第 6 次勝山市総合計画」および「第 2 期勝山市地方創生総合戦略」に反映させることを目的とします。

### (2)第 2 期市人口ビジョンの対象期間

第 2 期市人口ビジョンの対象期間は、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の推計期間にあわせて、令和 27 年(2045)までとします。





## 第 2 章 人口の現状分析

---



# 1 総人口の推移と将来推計

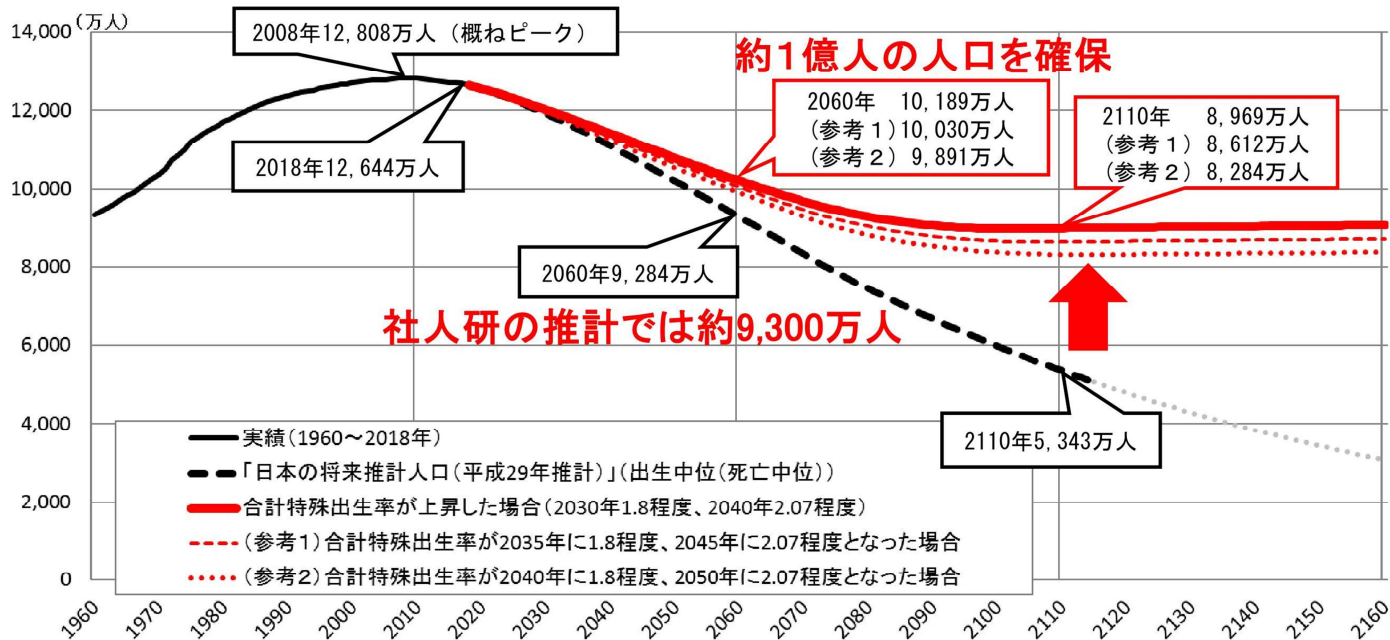
## (1) 国の人口の推移

国の長期ビジョン(令和元年改訂版)における社人研の「日本の将来推計人口(平成29年推計)」「出生中位(死亡中位)」によると、日本の総人口は令和42年(2060)に約9,300万人まで減少すると推計されています。

仮に合計特殊出生率が推計時の1.44から令和12年(2030)に1.8程度、令和22年(2040)に2.07程度まで上昇したと仮定すると、令和42年(2060)に約1億人となり、長期的には約9,000万人で概ね安定的に推移すると推計されています。

なお仮に合計特殊出生率の向上が5年遅くなると、将来の人口が約300万人少なくなると推計されます。

日本の人口推移と長期的な見通し



出典:国長期ビジョン(令和元年改訂版)

注)2018年までの人口は、総務省「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。

2115~2160年の点線は社人研の2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。



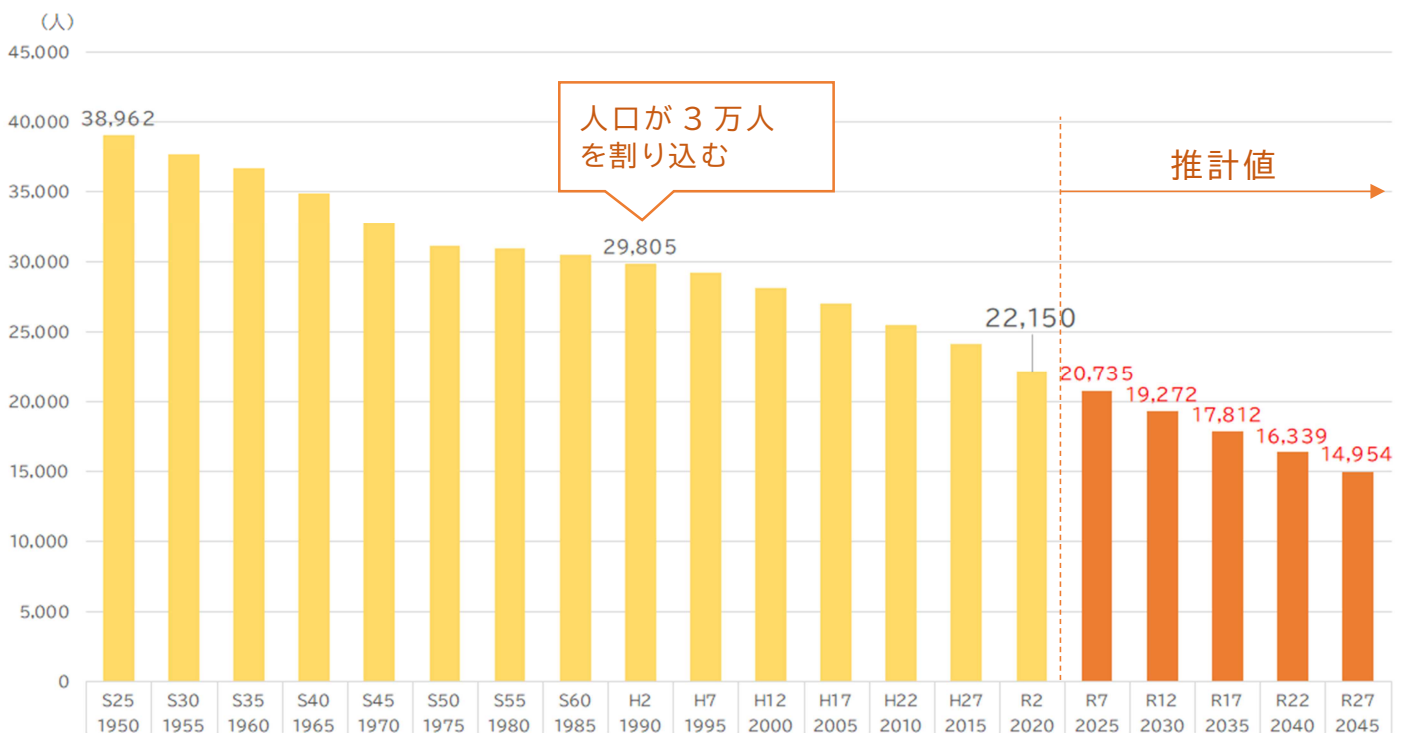
## (2)勝山市の人口推移

勝山市の人口は、昭和 29 年(1954)の市制施行以来、減少し続けており、令和 2 年(2020)10 月に実施された国勢調査の結果によると22,150人となっています。

また国が提供する「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和元年6月版)」を活用して、勝山市の将来人口を推計した結果、10年後の令和12年(2030)に19,272人となり2万人を割り込むと予想されます。さらにその10年後の令和22年(2040)には16,339人に減少すると推計されます。

これは直近の国勢調査である令和2年(2020)から令和22年(2040)までの20年間で勝山市の人口規模が約4分の3になることを意味しており、同期間の国の人口減少割合よりも大きくなっています。

勝山市の人口推移と長期的な見通し



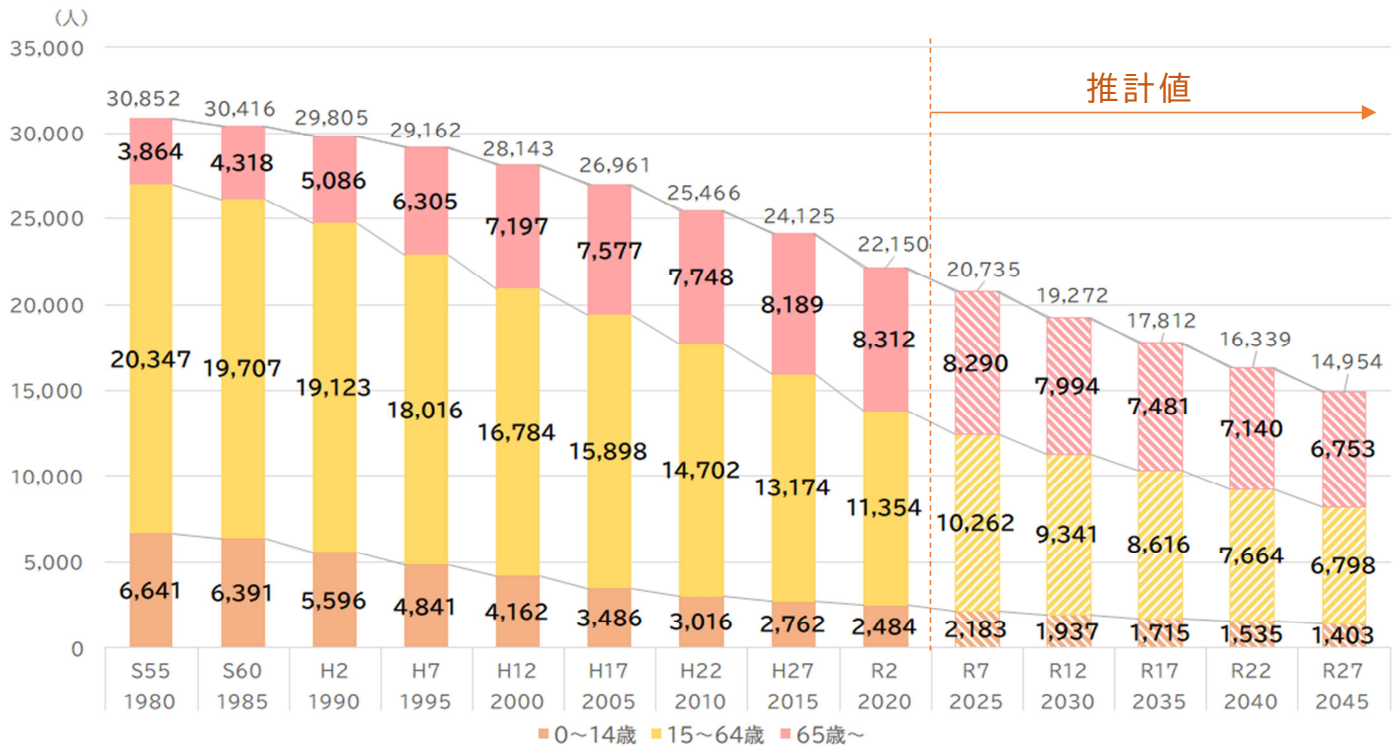
出典：総務省「国勢調査」(令和 2 年(2020)まで)

注)令和 7 年(2025)以降は、「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和元年6月版)」による推計値

### (3)年齢 3 区分別の人口の推移

勝山市の年齢3区分別人口は、生産年齢人口(15～64歳)と年少人口(0～14歳)がともに減少し続けている一方で、老年人口(65歳以上)は令和2年(2020)まで緩やかに増加していることから、少子化と高齢化が同時に進んでいます。

勝山市の年齢 3 区分別人口の推移



出典：総務省「国勢調査」(令和2年(2020)まで)

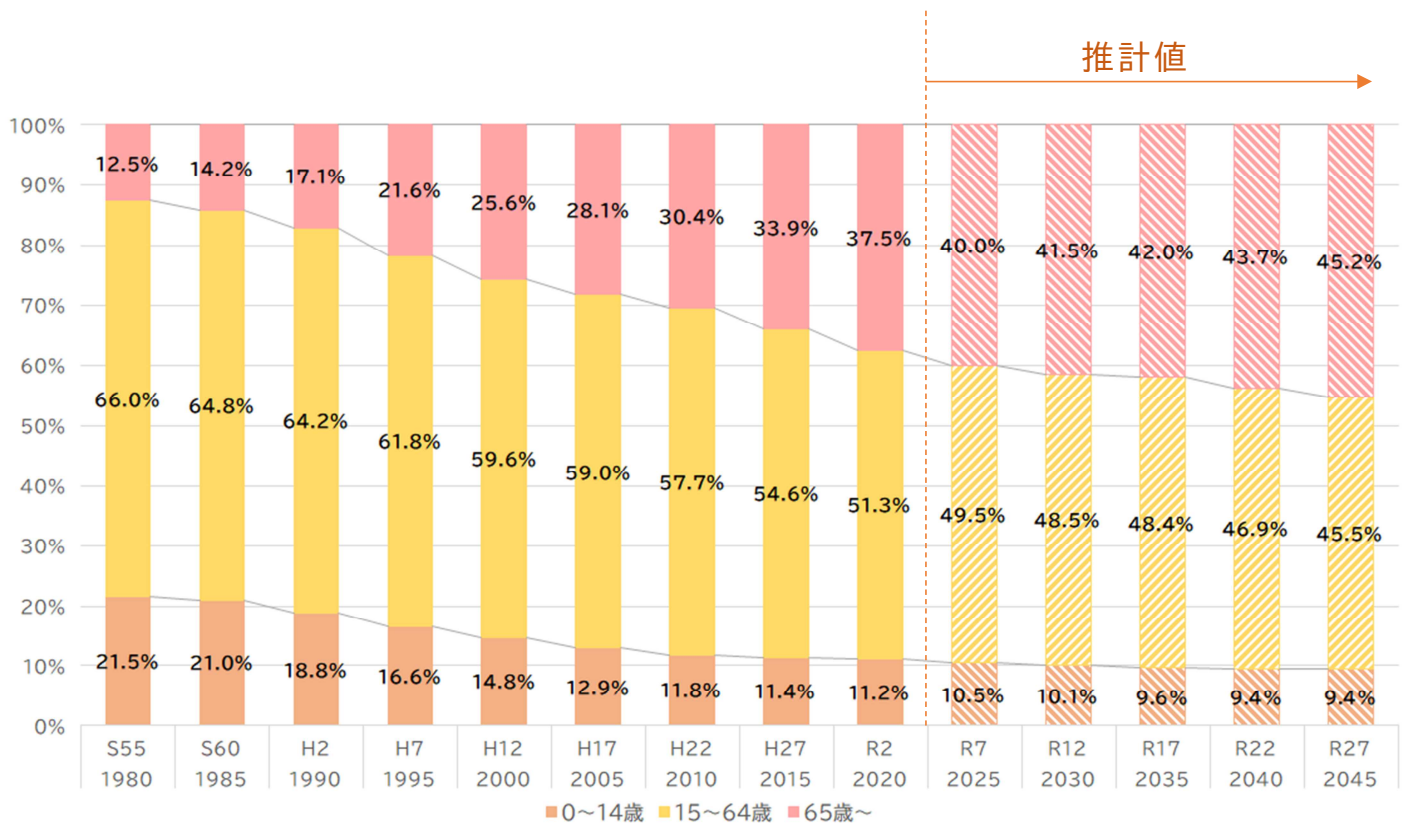
注)令和7年(2025)以降は、「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和元年6月版)」による推計値



## (4)年齢 3 区分別人口割合の推移

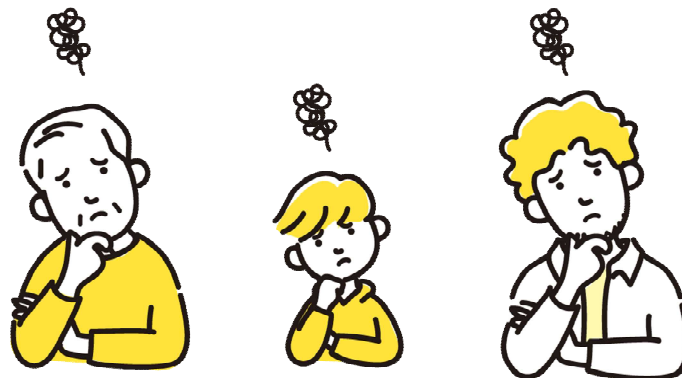
人口減少にあわせて人口構成も大きく変化します。年少人口(15歳未満)生産年齢人口(15歳以上65歳未満)が大きく減少し、老年人口(65歳以上)が微減にとどまることから、相対的に高齢者の占める割合が大きくなり、10年後には高齢化率が40%を超えると推計されます。また令和17年(2035)には年少人口の割合が10%を割り込むと推計されます。

勝山市の年齢 3 区分別人口割合の推移



出典：総務省「国勢調査」(令和2年(2020)まで)

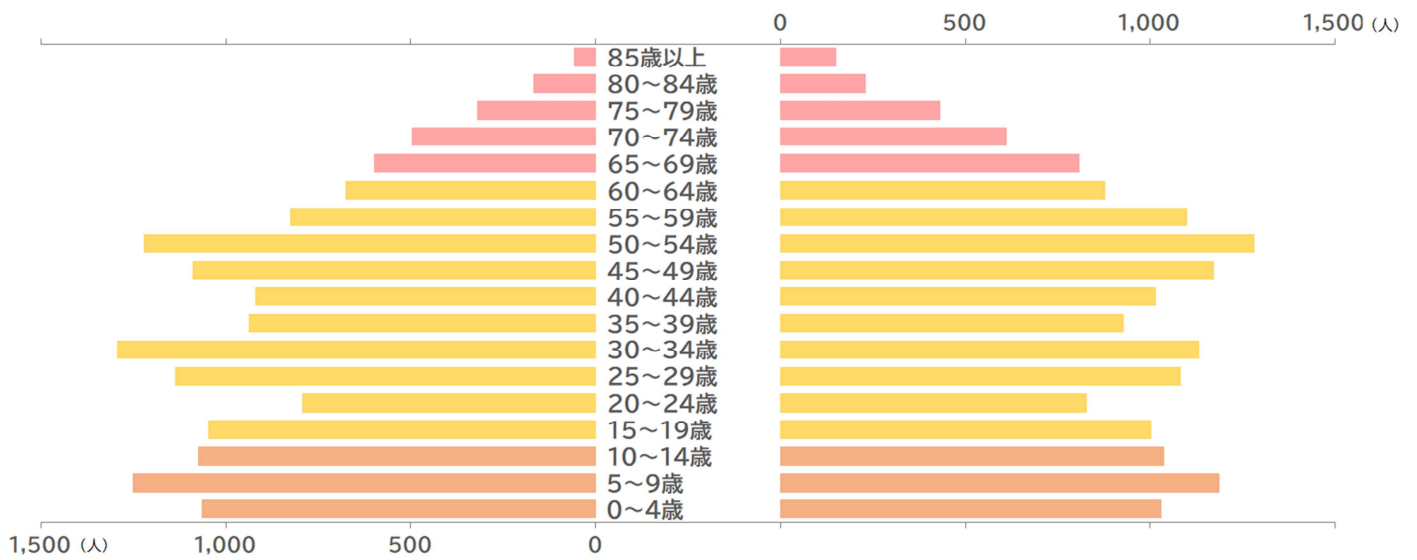
注)令和7年(2025)以降は、「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和元年6月版)」による推計値



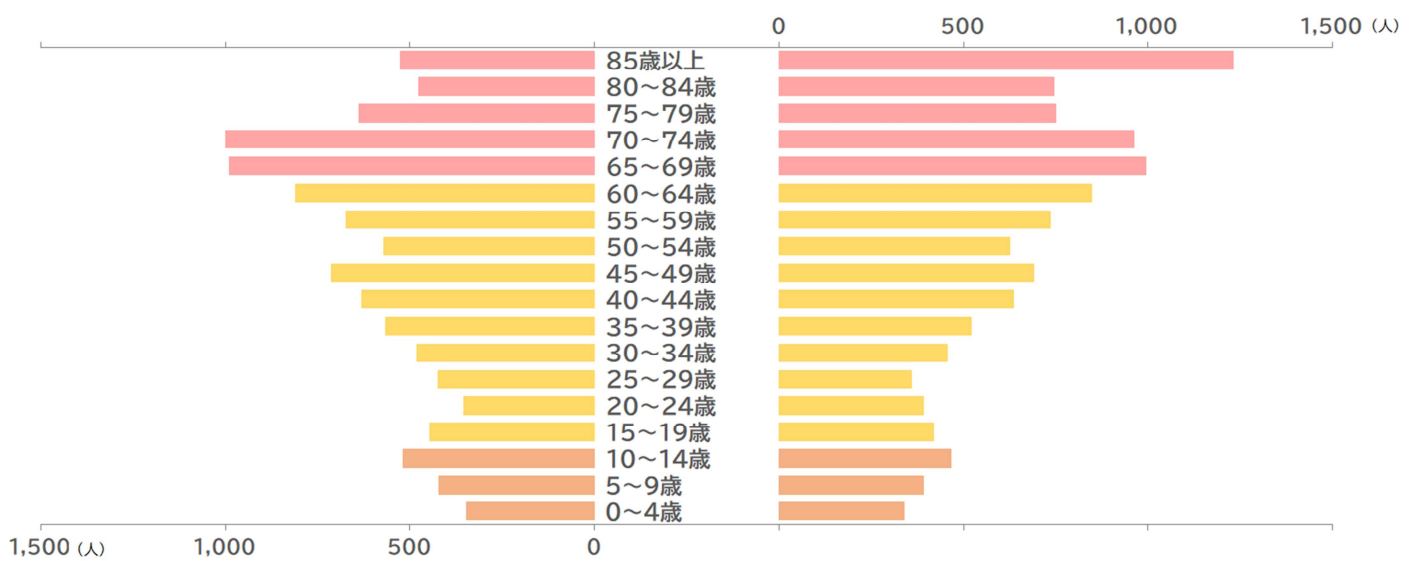
## (5)人口ピラミッド

勝山市の人口が3万人を超えていた昭和55年(1980)の人口ピラミッドは、「ピラミッド型」から「ひょうたん型」と呼ばれる形となっていました。令和2年(2020)には、逆三角形に近い形に変わり、40年の間に、少子高齢化が進んだことがうかがえます。

昭和55年(1980)の人口ピラミッド



令和2年(2020)の人口ピラミッド



出典:総務省「国勢調査」

## 2 自然増減の状況

### (1) 自然増減の現状

人口の増減は、出生、死亡、転入、転出の4つの要因に影響を受けます。そのうち、出生と死亡によるものが自然増減、転出と転入によるものが社会増減です。

勝山市の自然増減については、出生数が死亡数を上回る自然増の状態が続いていましたが、平成5年(1993)頃からは死亡数が出生数を上回り、以来自然減の状態が続いています。

自然増減の状況



出典：勝山市統計書「勝山市のすがた」

